学校通信
令和３年４月30日

豊地っ子だより

Ｎｏ．２　三木市立豊地小学校
http://www.miki.ed.jp/el/toyoti/

～　考える子　はげましあう子　つよい子　～

あいさつから始まる学校づくり　はげましあう子の育成に向けて

４月７日に始業式を行い、早くも明日からは5月となります。この1か月間の朝の様子は昨年度と変わりなく、朝から気持ちの良いあいさつが交わされています。

登校指導をしますと、子どもたちから「おはようございます」と声がかかり、学校に戻って校長室にいますと、ドアが開き、子どもたちは気持ちの良いあいさつをしてくれます。朝から子どもたちに元気をもらい、私自身、充実した学校生活を送ることができ、本当にありがたいことだと感じています。

本校には「豊地っ子の三指標」という取組があります。三指標とは、「あいさつの励行、時間を守る、美化に努める」ことであり、生活習慣の基礎として取り組んでいます。この三指標の一つであるあいさつの励行の具現化を図るために計画委員会の子どもたちは、あいさつ運動の取組を始め、継続的に取り組んでいます。自主的に取り組んでいる子どもたちの表情を観ていると、子どもたち自身が学校の文化を創り上げていることに頼もしさを感じます。

あいさつを交わしていくことでお互いの心が打ち解け合い、1日の始まりを気持ちよく送ることができます。人と交流するための第一歩としてあいさつを行うことはとても重要なことです。パナソニック株式会社の創業者である松下幸之助さんは、「道をひらく」という書籍の中で、あいさつについて下記のように書いておられます。

「おたがいにいたわりあう気持ちから出たこのあいさつで、あるいは、毎度お世話になっておりますというこの感謝の気持ちから出たあいさつで、おたがいの用件にはいる。仕事がスムーズに動き出す。だれが考え出したのでもない。私たちの遠い祖先から伝わってきたこのあいさつというものは、いわばおたがいの毎日の暮らしの潤滑油とでもいった尊い働きを果たしているのである。」

この文章からあいさつをすることは、お互いの心をつなぐ、尊いもので、人間関係を肯定的に築いて心豊かな社会を形成していくうえで大切なものであることが分かります。つまり、人権意識の高揚を図るための大切な言葉の一つであると考えます。

本校の子どもたちのあいさつの輪は地域にも広がっています。集団登校をしていますと、地域住民の方々や仕事に行かれている方に出会います。その度に子どもたちからあいさつを交わしています。先日、増田地区の登校班といっしょに学校まで歩きました。自転車で通勤されている外国籍の方や地域の方々に出会いました。子どもたちは次々にあいさつを交わしていました。外国籍の方もあいさつを交わされます。その表情を観ていると笑顔で嬉しそうにしておられました。

運転手さんに一礼をしている様子

また、学校前の信号を横断する地区の子どもたちは、信号が青になると左右を確認して歩き始め、渡り終えると車の運転手の方に一礼をしています。私たちは見慣れた光景ですが、細川派出所に3月末から勤務されておられる警察官の方は、この光景を見てびっくりされておられました。朝、通勤途上で急いでおられる運転手の方も一礼を受けることで気持ちが温かくなり、交通安全への意識も高まるのではないかと考えます。

このような子どもたちの姿は、長年、高学年の子どもたちが行ってきたことを下学年の子どもたちが見て、相手を大切にする行為として当たり前のように行えています。高学年から受け継いだあいさつを行うことの大切さが学校の人権文化となり、根付いているのです。

今年度も「豊地っ子の三指標」の大切さを子どもたちに指導して、「はげましあう子」の育成に努めていきます。本校の教育活動に引き続き、ご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。

学校長　善村　龍昭